

ニュース

みんなでつくろう！
しまやけべいせき
下宅部遺跡はっけんのもり

第90号【'09-1月号】

発行：下宅部遺跡
はっけんのもりを育てる会
東村山市諏訪町1-6-3
TEL：042-396-3800
発行日：平成21年1月13日

謹賀新年

明けましておめでとうございます。

旧年中は諸事お世話になり、ありがとうございました。

今年下宅部遺跡を再評価する年にします

下宅部遺跡が発見されたのが平成7年。本調査が始まったのが翌年の平成8年。漆塗りの飾りなどが出土し、カラー刷りの調査概報を出すようになったのが平成9年。それから毎年度この調査概報の刊行や現地説明会を行い、新聞発表などをしながら調査を続け、平成15年3月、様々な調査成果を発信しながら進めてきた現場調査は終了した。

引き続き本報告書作成のための資料整理・分析を行うが、これらは屋内での作業であり、人目に触れることはほとんどない。縄文を中心とした『下宅部遺跡 I (1)・(2)』

古代中心の『下宅部遺跡 II』が完成したのは平成18年の春であった。そして今年平成21年、現場調査終了から6年が過ぎたことになる。6年という時間は、物事を忘れてしまふには十分な時間である。2ページの表に見るように、報告・論文等の発表は随時行っていたが、地元の方々の目に触れる機会は少ない。そうした危機を押しこめていたのは、「下宅部遺跡はっけんのもりを育てる会」の様々な活動に他ならない。

「育てる会」は、遺跡の埋没保存が決定した平成12年、公園の計画・設計のための市民ワークショップから出発した。遺跡公園が完成したのは平成16年5月、発掘調査が終了してから約1年後のことであった。

産みの苦しみを乗り越え、育てる苦労と楽しみとなつてから5周年を迎え、「育てる会」としても節目にあたる今年、紆余曲折を経て「八国山たいけんの里」が開館する。かつて「(仮称)北山たいけん館構想」の中で「縄文体験館」と呼ばれていた施設である。

下宅部遺跡を始めた市内遺跡出土資料は総てここに収蔵・展示される。また、様々な体験ができる体験学習施設でもあり、「育てる会」の新たな活動場所として活用が期待されている。

下宅部遺跡の資料は、所蔵しているふるさと歴史館では展示の機会が少なく、他館への貸出は毎年続いている。他所に行けば見ることができるといふ逆転現象が起きていた。今年は展示の機会も多く、東村山で下宅部遺跡を再評価していただきたいと思う。(千葉)

開催年	展示名称	主催者
2000	発掘された日本列島	文化庁
2004	海をわたった華花	国立歴史民俗博物館
2005	水辺と森と縄文人	国立歴史民俗博物館・東北歴史博物館・新潟県立歴史博物館
2005	蘇る縄文	さいたま川の博物館
2006	常設展示	東京都埋蔵文化財センター
2006	縄文のムラ 弥生の村	茨城県立歴史館
2006	射る！弓矢の文化史	群馬県立歴史博物館
2007	縄文から続く北の漆文化	御所野縄文博物館
2008	常設展示	東京都埋蔵文化財センター
2008	縄文から続く「編み」の文化	御所野縄文博物館

下宅部遺跡の資料を貸し出した展示一覧

下宅部遺跡関係報告・論文等一覧表

発行年	編著者名	題名・掲載書誌名	発行所
1997	石川正行	「東京都東村山市下宅部遺跡の発掘調査」『東京の遺跡』No.58	東京考古談話会
1998	戸沢充則・千葉敏朗・黒濟玉恵・石川正行	「3.東村山市下宅部遺跡」『東京都遺跡調査研究発表会23 発表要旨』	東京都教育委員会
1998	石川正行・黒濟玉恵	「東京都東村山市下宅部遺跡」『情報 祭祀考古』第11号	祭祀考古学会
1999	古谷涉	「[史料紹介]下宅部遺跡の調査成果－縄文時代の弓と狩猟儀礼－」『東村山市史研究』第8号	東村山市
1999	千葉敏朗	「下宅部遺跡出土の「素材」系遺物について」『東京の遺跡』No.63	東京考古談話会
1999	石川正行	「(速報)東京都東村山市下宅部遺跡の調査」『考古学ジャーナル』450号	ニュー・サイエンス社
1999	戸沢充則・千葉敏朗	「2.東村山市下宅部遺跡」『東京都遺跡調査・研究発表会25 発表要旨』	東京都教育委員会
2000	佐々木由香	「縄文時代の「水場遺構」に関する基礎的研究」『古代』第108号	早稲田大学考古学会
2000	千葉敏朗	「精巧な漆の技術を駆使。飾り弓10点が一挙に出土」『発掘された日本列島 2000新発見考古速報』	朝日新聞社
2000	千葉敏朗	「豊かな漆工製品を出した低湿地の下宅部遺跡」『考古学クロニクル2000』	朝日新聞社
2000	野村周平	「東村山市下宅部遺跡の昆虫遺体[1] 昆虫が教える古代の武蔵野」『インセクトリウム』第37巻第10号	(財)東京動物園協会
2000	藤沼昌泰	「関東の低湿地遺跡－下宅部遺跡の水場遺構にみる生業活動－」『季刊考古学』第73号	雄山閣出版
2000	野村周平	「東村山市下宅部遺跡の昆虫遺体[2] 遺跡から出土した昆虫遺体を同定する」『インセクトリウム』第37巻第11号	(財)東京動物園協会
2000	勅使河原彰	「下宅部遺跡の調査成果と今後の課題」『東村山郷土のあゆみ』3	東村山郷土研究会
2000	倉石広太・長尾玲	「東村山市下宅部遺跡について」『武蔵野』第77巻第1号	武蔵野文化協会
2000	戸沢充則・千葉敏朗・石川正行	「6.東村山市下宅部遺跡」『東京都遺跡調査・研究発表会26 発表要旨』	東京都教育委員会
2001	千葉敏朗	「縄文時代の弓矢にもなう狩猟儀礼について」『東村山市史研究』第10号	東村山市
2003	戸沢充則・千葉敏朗・藤沼昌泰	「3.東村山市下宅部遺跡」『東京都遺跡調査・研究発表会28 発表要旨』	東京都教育委員会
2003	千葉敏朗	「東京・下宅部遺跡」『木簡研究』第25号	木簡学会
2005	石川正行	「下宅部遺跡の調査と活用」『明日への文化財』54号	文化財保存全国協議会
2005	千葉敏朗	「東村山市下宅部遺跡の調査 漆関連資料の新発見を中心に」『多摩のあゆみ』116	たましん地域文化財団
2006	永嶋正春	「縄文・弥生時代の漆研究の現状」『季刊考古学』第95号	雄山閣
2006	永嶋正春	「漆工技術の発達と特質」『季刊考古学』第95号	雄山閣
2006	永嶋正春	「漆で見る縄文と弥生」『日経サイエンス』第36巻第3号	日経サイエンス社
2006	千葉敏朗	「東京都下宅部遺跡」『季刊考古学』第95号	雄山閣
2007	工藤雄一郎・小林謙一・坂本稔・松崎浩之	「東京都下宅部遺跡における 14C年代研究」『考古学研究』第53巻第4号	考古学研究会
2007	千葉敏朗	「下宅部遺跡における狩猟儀礼」『原始・古代日本の祭祀』	同成社
2007	日本植生史学会	「特集：下宅部遺跡の縄文時代」『植生史研究』第15巻第1号	日本植生史学会
2007	千葉敏朗	「漆器製作のムラ」『縄文時代の考古学6 ものづくり－道具製作の技術と組織－』	同成社
2008	石川正行	「下宅部遺跡はっけんのもりの誕生－市民と地域博物館による遺跡公園づくり－」『都市公園』183	東京都公園協会

育てる会

今後の予定

- 1月13日(火) 午後1時30分から
ニューズ印刷発行(ふるさと歴史館)
- 1月17日(土) 午後1時30分から
第81回育てる会「下宅部遺跡研修会」
(ふるさと歴史館)
- 1月24日(土) 午前8時から
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 1月25日(日) 午後1時30分から
縄文土器部会(ふるさと歴史館)
- 1月27日(火) 午後1時30分から
縄文アンギン部会(ふるさと歴史館)
- 2月1日(日) 午後1時30分から
縄文土器部会(ふるさと歴史館)
- 2月3日(火) 午後1時30分から
縄文アンギン部会(ふるさと歴史館)
- 2月4日(水) 午後7時30分から
定例検討会議(ふるさと歴史館)
- 2月10日(火) 午後1時30分から
ニューズ印刷発行(ふるさと歴史館)
- 2月14日(土) 午前8時から
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 2月21日(土) 午後1時30分から
第82回育てる会「講演会」
『下宅部遺跡の調査成果と今後の活用』
講師 勅使河原彰氏
(ふるさと歴史館)